

健康通信

医療用麻薬について



市民病院 主任薬剤師

加藤 伸一

医療用麻薬って？

医療用麻薬とは、主にがんの痛みに対して使われる痛み止めで、「麻薬及び向精神薬取締法」という法律で規制されている薬です。

麻薬と聞いて、末期がんで余命が短い、麻薬を使うと中毒（依存症）になる、使い続けると効かなくなるなど不安になる患者さんもいらっしゃるのではないでしょうか。

しかし、医療用麻薬は医師の管理のもとで正しく使用すれば、決して怖い薬ではなく、安全で効果の高い薬として

世界中で広く使われています。

医療用麻薬の有用性

現在では、がんと診断された早い時期から、痛みの程度に応じて一般的な痛み止めに加えて医療用麻薬を積極的に使うようになっていきます。

医師の指示により適切に医療用麻薬を使用していれば、余命が短くなることはありません。痛みを和らげることによってQOL（生活の質）が向上し、生存期間も延びたという報告もあります。

適正な服用と安全性

医療用麻薬を痛みのない人が使用したり、医師の指示通りに使用しなかったりすると、依存症になることがありますので、絶対に他の人にあげたり、自己判断で服用方法を変更したりしないでください。

医療用麻薬を使用していると、今までと同じ量で痛みを抑えられなくなることがありますが、痛み自体が強まっている場合が多いです。増量で効果がなければ、薬の種類を変えたりすることで対応できます。



また、便秘や吐き気、眠気などの副作用が現れることがあります。でも我慢する必要はありません。

便秘であれば下剤などで対処し、吐き気はあらかじめ吐き気止めの薬を使用して対処します。吐き気と眠気は自然に治まることが多く、対処が不要の

場合が多いのです。

気になる症状が現れたら、医師や薬剤師、看護師に相談して対処していただければ上手に付き合えることができます。

他の一般的な薬は胃への負担軽減のため食後などに内服しますが、医療用麻薬は決められた時間で使用する薬です。突発痛（急に強くなった痛み）などに使用する薬もあります。

当院では医療用麻薬を開始する際に、安心して開始できるよう医師からの説明後に薬剤師や認定看護師も面談して説明しています。

何かお困りのことがありましたら、気軽に医療スタッフに相談してください。



問合先 市民病院（☎76・4131）